

第4章

区民健康村施設 (ふじやまビレジ・なかのビレジ)



ふじやまビレジ

「ふじやまビレジ」は、かつて養蚕が盛んな頃の民家(切妻屋根)をモチーフにデザインされた施設です。周辺の集落でもわずかながらその時代の家並みが受け継がれ、施設はそうした集落(富士山地区)に溶けこむように位置しています。

この地区では今では珍しくなってしまった貴重な風景を楽しむことができ、ほぼ垂直に積まれ苔むした石積みの棚田を、今でも土に生きる人々が元気に耕しています。

本館を中心に、地形に合わせて宿泊棟、食堂棟、温泉館が枝状に配置され、自然に親しむ施設として、空間を可能な限り連続させる形状となっていて、樹木を渡る風を呼び入れ自然の光を最大限に取り入れたロビーは、まさに外へ飛び出たくなってしまう魅力的な空間です。

付帯施設の野外炊事場は、川場村の木材を使用し、木の温かみを表現した造りで、家族や団体がバーベキューやカレー作りなどを楽しむことができます。

平成30年に完成した「桜川温泉せせらぎの湯」は、豊富な湯量がコンコンと湧き出る自家源泉です。日帰り入浴もでき、宿泊者はもちろんのこと、地域の方々にも親しまれています。

また、改装した「食事処さくら川」では、薪窯グリルならではの「生火」の魅力とそこで造られる至高の料理、武尊山の恵が奏でる極上のおもてなしを提供しています。

- 宿泊定員** 112名
- 施設内容** 宿泊室 2棟28部屋
 食堂、村の会堂、
 野外炊事場、
 桜川温泉せせらぎの湯、
 食事処さくら川



ふじやまビレジ施設周辺図



ふじやまビレジ全景



ふじやまビレジ施設図



富士山集落



集落上空写真



宿泊室



食堂



ロビー



本館大浴場



野外炊事場



せせらぎの湯



食事処さくら川



食事処さくら川



食事処さくら川

なかのビレジ

「なかのビレジ」は、遠くに赤城山や浅間山を望み、眼下にはリンゴ畑を、そして背後には広大な森を従えたとても眺めの良い高台にあります。ビレジはいつも季節ごとの色とりどりの花々や周辺の豊かな森と鳥たちのさえずりにつつまれており、館内は和と洋の融合で快適さとしっかりと落ち着いた雰囲気兼ね備えています。

周辺では初夏からブルーベリー摘みや川遊びが楽しめ、近くの田んぼではホテルが飛び交います。秋は紅葉やリンゴ狩りが体験できるのも魅力のひとつです。

付帯施設としてバーベキュー場「森のキッチン」も完備し、家族での焚火体験や炭を使った料理も楽しめます。また、森のむらや森の学校、炭窯などが併設されているほか、区民村民の協働による森づくりの場として友好の森があります。友好の森は森林ボランティアの活動や自然観察、里山体験などの交流事業が主体的に実施される野外活動の拠点として多くの方々に愛されています。

また、ビレジからほど近くに、てんぐ山運動公園グラウンドがあり、世田谷区や川場村のさまざまな団体がスポーツを楽しんだり、交流試合や親善試合などに利用されています。

- 宿泊定員** 105名
- 施設内容** 宿泊室 3棟28部屋(内 洋室4部屋)
 食堂、屋根付き広場、野外炊事場
 森のむら
 (別棟宿泊施設 5部屋 20名程度)



なかのビレジ周辺施設図



玄関



なかのビレジ施設図



フロント



売店



エレベーターホール



A・B棟広間 C棟広間



A・B棟客室 和室10畳



C棟客室 洋室ベットタイプ



大浴場



食堂



屋根付き広場



会議室



キャンプファイヤー場



野外炊事場(3棟)



森のむら



駐車場

「冬×ふじやまプロジェクト」^{ふじやま}富士山集落活性化協議会

村内北部に位置する「富士山」は、25軒の小さな集落です。区民健康村施設のふじやまビレジもあり賑やかな反面、高齢化や後継者不足など、全国の農山村と同じような問題も抱えています。また、山に近いことから獣害なども年々ひどくなり、地元の人はこの集落の今後を心配していました。そんな中、地元住民で構成される「富士山集落活性化協議会」が発足したのです。

「活性化」と言っても漠然として、実際には何をすれば良いのか、またどうなれば活性化は成功なのか・・・そんな不安もありましたが、地元の人々は色々と議論を重ねてきました。そして、ベニバナやワサビの栽培、遊歩道整備など、様々な取り組みを行ってきましたが、中でも一大イベントとなったのが、雪深い棚田に竹灯籠を飾って火を灯す「冬×ふじやまプロジェクト」です。

多い時には7,000本設置した年もありましたが、その一つ一つにロウソクを入れて、生の火を灯すことで、とても幻想的な光景が広がります。それは写真や言葉では表現できないほどです。それだけでなく、訪れる人々やこのイベントに携わる人々の交流こそが、このプロジェクトの醍醐味でもあります。

こうした活動は、輝かしい功績も残しています。それは、農林水産省が手掛ける「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の優良事例に選ばれたのです。応募総数931件の内、優良事例として選定されたわずか31地区に、この小さな集落の名前が刻まれ全国に発信されました。最初は手探りで始まった取り組みが、全国的にも評価されたのですから、「活性化」は成功と言えるのではないのでしょうか。何より、これまでの交流がきっかけで得たモノは大きく、集落にも活気が出てきました。

でもこれで終わりではなくこれを持続させ、さらに発展させていくことが重要です。そんな富士山集落では、2018年に寄贈された水車が回り続けています。製作を手掛けた関清前村長の「水車が回り続けるように、富士山集落も走り続けてほしい」という想いが込められているそうです。その想いに応え、さらなる「活性化」に期待が高まります。(2023年から「冬の竹灯籠まつり」に改称)



企画・編集 世田谷区 生活文化政策部 区民健康村・ふるさと・交流推進課
(〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-3-5
電話：03-6304-3594 FAX：03-6304-3714)

川場村 むらづくり振興課
(〒378-0101 群馬県利根郡川場村大字谷地 2390-2
電話：0278-52-2111 FAX：0278-52-2333)

(株)世田谷川場ふるさと公社
(〒378-0101 群馬県利根郡川場村大字谷地 1320
電話：0278-52-3311 FAX：0278-52-3313)

編集協力 第七広告(株)

写真協力 飯田 裕子

参考図書 健康村むらづくりの記録 世田谷区・川場村縁組協定 20周年記念
都市と農山村の交流(鈴木忠義著)

発行日 2023年(令和5年)3月

発行 世田谷区 生活文化政策部 区民健康村・ふるさと・交流推進課
世田谷区広報印刷物登録番号 No.2131

